9/●● ●:30 ころ ●回目の施術終わりました 最初 VAS90→施術後 75 になるがすぐ戻ってしまうらしい 体温は問題なし 36.3 血圧が相変わらず高い 151 110 92 2週間後医師にすぐ報告できるようメモをしておきます 目が悪い用で自宅に来たはがきを読んでほしいと相談された 信頼関係が少しずつできている気がします 何か気を付けることなどあれば教えてください VAS チェックは月に 1 から 2 回程度 体温血圧チェックは毎回やろうと思ってます

ChatGPT:

とても丁寧に経過観察されていて、信頼関係も少しずつ築けているのが伝わってきます。いただいた記録を踏まえて、臨床的・倫理的に気をつけるポイントを整理しました。

1. バイタルチェックの継続

- **血圧**: 151/110/92 と高めが続いているので、毎回記録を続けるのは適切です。
 - 。 変動幅を把握できるよう、できれば施術前・施術後の2回測定してみるのも有効です。
 - 。 医師に提示する際には「日付・時刻・測定条件(施術前/後)」をセット で残すと伝わりやすいです。
- 体温:特に問題がなくても、毎回測ることで急な変化に気づきやすくなります。

2. 症状評価

- VAS(痛みの主観的スコア):
 - 月 1~2 回でも十分ですが、「悪化・変動があるときに追加で測る」という柔軟さも持つとよいです。
 - 。 数字だけでなく「どういう動作で痛みが強まるか」を簡単にメモしておく と医師にも共有しやすいです。

3. 信頼関係の形成

- 「目が悪くて郵便物が読めない」など生活の困りごとを相談されたのは、信頼 が深まっている証拠です。
- ただし **医療相談と生活相談の線引き** を意識し、できる範囲で支援する姿勢が大切です。
 - 例:郵便物を読む程度は日常的支援として可能。
 - 。 医学的判断を超える内容(治療方針の変更や薬の調整など)は必ず 「医師に確認してください」と明示する。

4. 医師への情報提供に向けて

- すでに「2週間後に医師へ報告できるようにメモを作る」とされていますが、以下を意識すると整理しやすいです:
 - しびれ・痛みの経過(VAS の推移)
 - 。 バイタル(血圧・体温の時系列)
- 「**異常の兆候を見逃さず、まとめて伝える**」という姿勢は医師からも評価され やすいです。

5. 倫理面での留意点

- 不安を過度にあおらない → 今回の対応はその方針で適切。
- **患者の主体性を尊重** → 記録を共有しながら「次回医師にこう伝えましょう」と 一緒に確認すると安心につながります。

『総合すると:

今の対応(バイタル毎回チェック、VAS 定期+必要時追加、生活支援も範囲内で)は 非常に適切です。 さらに「施術前後での血圧測定」と「痛みの誘因動作の簡単な記録」を追加すると、医師にとっても有用な情報になります。

ご希望なら、この記録を**医師への報告用フォーマット(簡単な表形式)**に整えて差し上げましょうか?

あなた:

これはその通りですね すでにやっていますがより一層気を付けようと思います>> 医学的判断を超える内容(治療方針の変更や薬の調整など)は必ず「医師に確認してください」と明示する。 患者の主体性を尊重 → 記録を共有しながら「次回医師にこう伝えましょう」と一緒に確認すると安心につながります。

ChatGPT:

素晴らしいですね。すでに実践されているとのことで、患者さんにとっても非常に安心 につながっていると思います ◆

改めてポイントを整理すると:

• 線引きの明示

- 。「これは私の範囲でできること/これは医師に確認が必要です」と明確 に伝える。
- 境界をはっきりさせることで、むしろ信頼感が増します。

患者の主体性を尊重

- 。 記録を患者さんと共有しながら「この内容を次回医師に伝えましょう」と 確認する。
- 。 自分が"医師に報告する当事者"だと患者さん自身が感じられるので、 安心と自律の両方につながります。

• 付け加えるとよい工夫

- メモや記録に「患者さんの言葉そのままの表現」を残す。
 - 例:「ズキズキする」「ビリビリして力が入らない」など。
 - 医師も主観的表現を重視することがあり、報告の質が上がります。

☞つまり「境界を守りながら、患者と一緒に次の診察を準備する姿勢」がベストです。

もしよければ、このスタンスを**短い一文の「自分へのリマインダー」**としてまとめますか?(診療記録の冒頭に毎回書けるような形にしておくと習慣化しやすいです)